

Joyama

vol. **30**

2014 Summer

通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌

Fukuoka University of Education Campus Magazine

特集1

大学改革

特集2

附属学校・園

豊かな教養と高い専門性をつちかう
福岡教育大学

特集

大学改革

平成26年4月に行われた寺尾学長による大学運営方針に関する全学説明会において、学長2期目の今後2年間を、改革加速期間とすることが述べられました。

今号の特集より、義務教育諸学校の教員養成を行う九州の広域拠点大学としての役割を担うために、本学が全学をあげて取り組んでいる大学改革について紹介していきます。

第1弾の今回は、本学のカリキュラム改革、入試改革そして教員就職率向上へ向けた取り組みについて、担当副学長と担当副理事より、改革に向けた意気込みをお聞きしました。

本学のカリキュラム改革について

本学は、平成25年度に公表されたミッションにおいて、義務教育諸学校の教員養成に関する広域拠点大学としての役割を担うこととなりました。

急速な変化を続ける現代社会において、教師に期待される役割はますます高度化・複雑化しています。また、学校現場においては、ベテラン教員が大量に退職していく時代を迎えつつあります。

このような社会状況の下、本学は教員養成の質的向上を実現すべく、不断の改革に取り組んでいきます。また、改革を進めていくにあたっては、教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等から成る常設の諮問会議を設置しました。教育委員会や学校現場のニーズをふまえ、本学の卒業生や修了生が、初任段階から即戦力として学校現場に貢献できるように、これまで以上に実践力の育成に取り組みます。また、教科指導等に関する専門性だけでなく、専門職業人として生涯にわたり学び続ける力や子どもたちの人格形成に関わる者として備えるべき総合的な人間力といった資質についても、在学中にその基礎を築けるようにさまざまな学びの機会を設けていきたいと考えております。

今後も本学は、教員養成に対する社会の要請を真摯に受けとめて、その質の向上に尽力して参りますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

副学長(教育組織・カリキュラム改革担当) 池田 修

vol.
30

CONTENTS

- 02 特集1
大学改革
- 06 特集2
附属学校・園
- 10 福教大NEWS
- 14 授業紹介
栽培実習A(平尾健二教授)
- 15 研究室・講座紹介
樋口裕介研究室／学校教育講座
- 16 サークル紹介
ラグビー部
華道部
- 17 社会連携 連載第8回
- 20 福教大卒OB・OG
直方市立直方北小学校主幹教諭
山野 直樹さん
福岡県警察事務 花田 響子さん
- 22 TOPICS
憩いの場が拡大しました!
表紙モデルの福教大生☆
学生広報スタッフ大募集
- 23 キャンパスからの便り





入試改革及び教員就職率向上への取り組みについて

本学は、ミッションに示されているとおり、第2期中期目標期間において、教員になるための資質能力を有する者を的確に選抜する入試改革と学生の進路に関する希望に応える教育改革を行い、第3期中期目標期間において、学部卒業者に占める教員就職率を、現状は71%ですが、これを85%(大学院教育科学専攻も85%、教育実践専攻は100%)確保できるよう、その改革に取り組んでいます。

まず、入試制度については、教職への高い意欲及び高等教育レベルでの専門的な学びを实践できる基礎学力を有する者を確保していく必要があります。その取り組みとして、より多くの教員志望の受験生に本学が選ばれるよう、高等学校への訪問や個別説明会の開催など各種広報活動の見直しを行っていく予定です。また、入学者選抜方法についても、他大学の入学者選抜方法の分析や本学における入試データの分析などにより、センター試験・個別学力試験の配点比率や受験科目の設定等の検討を行っていく予定です。さらに、教育組織の検証と関連させた入試改革についても今後の検討課題であると考えています。

次に、教員就職率向上については、「学校教育3課程の教員志望者および教員就職者の向上策について」で策定した具体的方策に基づいて取り組みを行っています。その取り組みの一つとして、各講座において出願者・合格者の目標値の設定と達成に向けた対策と計画を作成し、講座内の教員採用試験対策の強化を図っています。また、就職担当者会議の役割を明確にし、キャリア支援センターと各講座との情報交換・連携の強化を図っています。

さらに、教職に向けたキャリア教育の推進や専門科目における知識や実践力の育成及びボランティア活動の奨励など4年間を見通した就職指導を行えるように、ロードマップや支援マニュアルの作成なども今後検討していく予定です。

副学長(入試改革・就職担当) 相部 保美



教員就職率向上への取り組み

大学改革に向けた私の業務の中核は、学生(学部・大学院)の就職率向上にあります。特に、教員養成系大学としての使命を果たすためには、教員採用者数の現役採用率を向上させていかなければなりません。私の役割は、各学年630名を抱える学生の就職率向上に向けて、大学の全教職員の方々の協力を集約し、成果として学生に還元することです。

今年度より相部保美副学長(入試改革・就職担当)が着任され、私の業務はこれまでの3・4年生対応の出口(就職実績)対応業務だけでなく、1年生から4年生の全学年の就職指導の推進役に変化してきています。具体的には、本学の全講座から代表者(1名)を選出いただいている就職担当者連絡会を通じて、①キャリア支援センターを中心とした教員就職・一般就職関係の情報発信、②講座間の各学年の就職指導に関する情報共有、③他講座(他大学)の相互交流を踏まえた業務改善の推進へと変化してきています。

私の担当業務の本質は、本学の全教職員の方々の協力を得て進めることにありますので、必然的にそれらが学生指導・就職率(教員採用者数)へと転化するはずですが、また学生の就職率だけでなく、就職後の教員としての質(指導能力)の高まりを通じて、私の活動を評価していただければと思います。

大学・大学院の卒業生・修了生の皆様、学生の保護者の方々にも是非ともご尽力いただければと考えていますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

副理事(キャリア開発担当) 大竹 晋吾





入試改革への取り組み

本学のミッションとして、「教員になるための資質能力を有する者を的確に選抜する入試改革」が掲げられており、現在、現行の入学選抜方法の検証を行うとともに、改善に関する取り組みについて検討しています。

特に、すぐに取り組むことができる改革として、入試広報の充実に努めています。全国的に18歳人口が減少する中、本学におきましても優秀な人材を獲得するための効果的な広報戦略が必要であると考えています。受験生の進路決定にあたっては、高校教員から得た情報を参考にしていく割合が高いことから、今年度からは、高等学校へ積極的に入試広報に出向き、本学の特色や良さをPRしていきたいと考えています。大学院におきましては、対面型の広報活動が受験生の獲得に効果的であることから、大学院説明会をより充実させるとともに、本学教員が本学学生のみならず、他大学の学生や社会人などに積極的に働きかけ、優秀な人材の獲得に努めて参りたいと思います。

オープンキャンパスや大学説明会などの入試広報イベントは、毎年多くの受験生や高等学校の先生方にご参加いただき、感謝いたしております。本学のホームページや入学案内パンフレットでも、大学の様子を知ることはできますが、やはりオープンキャンパスにご参加いただくことで、本学の良さをより知っていただけると感じております。本年度も様々な入試広報イベントをご用意しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。

副理事(入試実施担当) 片平 誠人

特集 2

附属学校・園



本学は、赤間、福岡、小倉、久留米地区の4地域に、附属幼稚園(赤間地区)と附属小学校及び中学校(福岡、小倉、久留米地区)を擁しています。

各附属との研究連携として、幼児教育研究部会、初等教育研究部会、中等教育研究部会及び特別支援教育研究部会から成る共同研究会議を設置して、学部・大学院と附属学校・園との連携協力体制をつくり、共同研究を推進するとともに、毎年その成果を研究発表会として公開しています。研究発表会の参加者は県内のみならず、広く全国各地に及んでいます。さらに、学部・大学院の教員が附属学校を活用した研究実践の一環として、附属学校・園において授業実践を行っています。

また、各附属学校・園は、幼児教育、初等教育、中等教育、特別支援教育を行うとともに、学生の教育実習の場でもあります。

今回の特集では、各附属学校・園の先生方に、教育実習に臨む学生への心構えや事前の準備、教育実習における各学校の取組そして教職を目指す本学学生に期待したいことなどについて話を伺いました。



福岡教育大学附属幼稚園

附属幼稚園における教育実習

— 「子どもをみる」「保育をする」とはということかを考える —



本園は、平成25年11月に、「園児の育ちを促し、対話が広がる附属幼稚園」をコンセプトに、園舎が改築されました。自然環境に恵まれ、光と木の温かさが感じられる環境の中で、生き生きと過ごす子どもたちとの関わりを通して、将来の夢をはぐくんでほしいと願っています。

教育実習に臨む学生については、実習に専念できるように、また、将来「先生」の立場になることを自覚して、健康管理を含め心の準備をしっかりとしてほしいと思います。

本園では、教育実習に参加した学生について、開始式・終了式の場を設けるとともに、毎朝の職員朝会にも一緒に参加させ、1日の保育の流れや、配慮することなどを確認するようにしています。

教育実習では、特に「子どもをみる」とはということなのか、「保育をする」とはどうすることなのか、実習生一人一人が感じたり体験したり学んだりしたことを自分なりに整理し、その後の勉学に生かすことが大切であると考えています。

教職を目指す本学の学生には、進取の気象に富み、考えること、試すことを楽しんでする人、あきらめない人であってほしいと願っています。また、人の言動をはじめ、表に表出・表現されている事柄だけではなく、その内面を受け止めることや周りのことも含めてとらえようとする習慣を身に付けてほしいと思います。

子どもたちは無限の可能性をもっています。その未来や生き方に関わることには大きな責任が伴います。しかし、それ以上に、日々の小さな育ちや成長に喜びを感じられることは教職の一番すばらしいところであると思いますので、夢の実現に向けて頑張ってください。



福岡教育大学附属幼稚園 副園長 河本 博子



福岡教育大学附属福岡小学校 教育実習生への期待



——「先生」として大切な資質は「子どものためにがんばれること」——



福岡教育大学附属小学校での教育実習は、大学教育において学習した理論的研究を基盤に、教育の実践的な指導にあたり、理論と実践の統合を追究するとともに、教師としての人格、識見の基礎を培うことをねらいとしています。学習指導はもちろん、生徒指導や学級経営にも携わり、「先生」と呼ばれ、子どもと毎日を過ごすことになります。また、特別支援学級での学習指導や帰国子女学級との交流もあり、様々な状況の子どもたちの指導について学ぶことができます。

これまでの学生生活と違った責任ある振る舞いや仕事としての文書提出の留意点など、社会人としての基礎的な行動を身に付けることができます。また、子どもたちにとっては、「先生」であることを自覚し、職責を感じながら、そのやりがいや充実感を体験することができるでしょう。学生の立場ではわからなかった「先生」の苦労や喜びを見つけて欲しいと思います。そして、子どもたちの成長を間近に感じることができるのが教職の喜びであることを知って欲しいと考えています。そのために、「教えることは学ぶこと」の努力を怠ってはならないという厳しさも知って欲しいのです。学習指導案のアイデアが出ずに苦しく思うこともあるかもしれませんが、その苦しみも子どものためと思うことができる人が「先生」です。「先生」として大切な資質は、「子どものためにがんばれること」です。子どもの成長のために仕事ができることは、苦しさや喜びに満ちていることを感じて欲しいと思います。そのようなことを経験できる教育実習に、全力で取り組むことができるように、附属学校でも準備をしています。

福岡小学校 教育実習部長 伯川 康洋



福岡教育大学附属福岡中学校 附属福岡中学校における教育実習



—— アンテナを高く張り、生徒と多様なコミュニケーションを ——



昨年度、教育実習の事後指導で「実習を通して、教師になりたいという決意が固まった」という感想を多くの学生の皆さんから聞きました。指導に関わった我々としては、喜ばしいことであり、より多くの実習生にこのように感じてもらえるよう実習の改善に努めているところです。

「実習」とは、文字どおり講義などで学んだ知識や技術を実際の現場で学び直すことです。事前の準備がとて重要で、具体的には、実習で担当する教材や題材を様々な角度から研究して「この教材に関しては、誰にも負けない」といった意気込みで実習に臨んでほしいものです。また、実際の授業や学校生活では、幅広い知識(いわゆる雑学)も生徒とコミュニケーションをとるうえでは欠かせないものです。政治・経済や国際情勢、スポーツから芸能まで、日頃からアンテナを高く張って、多様な話題に対応できるよう準備を心がけてください。附属中学校の実習では、通常1教科に数人の実習生が配属されます。指導教員から直接アドバイスを受ける時間は、その分少なくなりますが、仲間とともに切磋琢磨する貴重な実習期間です。事前の準備段階から情報交換や共同で指導案を検討するなど、教育大学附属学校での実習というメリットを十分に生かし、有意義な実習となることを願っています。

附属福岡中学校 副校長 吉本 真也



福岡教育大学附属小倉小学校 附属小倉小学校における教育実習



—— 一人一人の子どもたちの中に秘められたよさを見つけ出す ——

附属小倉小学校の子どもたちは、活発な子が多くとても明るく元気です。教職員も、豊かな心とたくましい実践力のある子どもの育成を目指して、日夜頑張っています。

教育実習を迎える皆さんたちは、きっと多くの不安を抱えていることでしょう。ロボットのように、同じプログラムを入力すれば同じように動く。そうはならないのが人間です。ここに教育の醍醐味と難しさがあります。子どもも大人も、一人として同じ人間はいません。ものの見方・感じ方・考え方はすべて異なります。そのような人間同士が学校という空間の中でともに生活し、学び合い、磨き合い、高め合うことによって成長していく。この教育のダイナミズムを、教育実習を通じて実感してほしいと思います。

子どもたちは、教生先生(教育実習生)との生活をとても楽しみにしています。また、相手に応じて様々な姿を見せます。教育実習期間中、一人一人の子どもたちの中に秘められたよさを、教生先生たちのたくさんの目で、一つでも多く見つけ出してしてくれることを期待しています。そして、この教育実習が皆さんたちにとって、教師という仕事のやりがいを感じ、教職を本気で目指す契機となるように願っています。

附属小倉小学校 副校長 藏内 保明



福岡教育大学附属小倉中学校 附属小倉中学校における教育実習

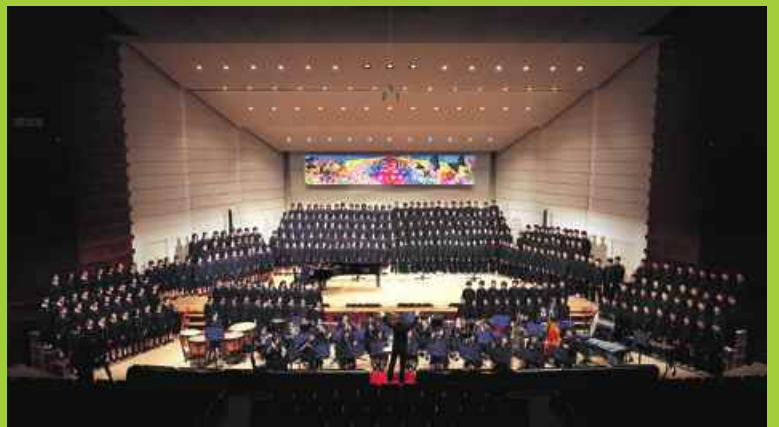


魂の共鳴 —— 教師になりたいという強い情熱と教職への深い理解を ——

本校は、校訓である「創造実践」を目指し、「地域に誇れる一流の学校」「地域が誇れる一流の若者」たらんと、教師と生徒、そして保護者が一丸となって日々精進している学舎です。教育実習生においては、最高の教師になりたいという高い志を胸に本校生徒に接していただきたいと考えています。本校生徒の志を遙かに凌駕する高い志を、教育実習生が示すことができこそ良質な教育が成立します。「教育は人なり」といいます。教育実習生が示すこれまでの自身の生きざまが生徒たちの範となり、生徒たちの成長の支えとなります。そのために教育実習生には、教師になりたいという強い情熱と教職への深い理解が必要です。

さて、学生のみなさんには本校での教育実習の前に、日々の自身の生活や考え方をぜひ振り返っていただきたいと考えています。自分が「地域に誇れる一流の学校」を目指す学舎において「地域が誇れる一流の若者」を目指す生徒の前で何を語ることができ、何を伝えることができるのかを。それをもちえない教育実習生は本校生徒の支えにならないばかりか成長の妨げとなるでしょう。本校生徒と教育実習生との出会いが実り多いものとなるように本校は万全の準備を整えて教育実習生を受け入れます。教育実習生の万全の準備に心から期待しています。そして、教育実習が学生のみなさんの人生の素晴らしい1ページとならんことを切に願っています。

附属小倉中学校 副校長 石兼 秀則





福岡教育大学附属久留米小学校

附属久留米小学校における教育実習

— 教員としての資質・能力を見つめ、自覚し、高める —



本校では、教育実習を行う学生の皆さんを「先生」として迎えるようにしています。附属小の教職員とともに子どもたちを育てる一員になっていただくということです。それは、学生生活の日常を離れて、一般社会人としての構えを強くもちながら、教員として大切にすべき子ども観、授業観などの見方・考え方、教育指導や準備作業の方法、同僚との協働などを、実体験しながらしっかりと身に付けていただきたいと願うからです。卒業後は、当然ながら初日から社会人であることが求められますし、教員として学校現場に出たときに「こんなはずじゃなかった」と戸惑うことがあってはなりません。教育実習期間に自分自身の教員としての資質・能力を見つめ、自覚し、高めていただきたいと思っています。実習生の皆さんが「得るものが多く有意義だった」と思える教育実習プログラムと指導体制を整え、全教職員の力を結集して育成を図ります。そして、次のような「心得」を示して指導・助言を行っていきます。

- 「一人の子どもを粗末にしたとき、教育はその光を失う」これを根底に据えて!
- 「子どもは可能性を秘めた存在である」丁寧に、厳しく、愛情をもって!
- 「先ず子どもありき」子どもと遊んで、子どもと心を通わせ合って!
- 「仕事に追われるな、仕事は追いかけろ」必ずメモして、計画的に、時間厳守で!
- 「今やらずして、いつできる」「自分がやらねば、だれがやる」の心意気で率先して!
- 「学校は組織で動くもの」忙しいときこそ、声を掛け合い、仲間と支え合って!
- 「社会人としての気構え、物構え、心構えをしっかりと」社会性を高めて!



附属久留米小学校 副校長 高橋 泰朗



福岡教育大学附属久留米中学校

附属久留米中学校における教育実習

— 種々の体験を積み重ね、「総合的な人間力」を高める —



本校では、教育実習の心得として「指導教師の指導・助言の下の実習」「周到な準備」「厳正なサービス」を挙げています。その根底には、授業者として、教職を目指す学生として、子どもへの責任があります。その責任を果たそうとする誠実さが子どもへの愛情や向上心につながっていくと考えます。教育実習の事前指導でも、授業準備など「もうこれくらいいいか」と妥協しないでほしい、我々も妥協しませんという話をしました。

本校教育実習の特徴としては、実習期間が本校三大行事の最後を飾る文化祭(各学級でつくりあげた学級劇の上演を中心に、学習成果の発表等)の取り組みと重なるという点です。台本・キャスト、大道具(背景画)、小道具、照明、音響、衣装・メイクなど、すべて手づくりの学級劇です。子どもたちは、個人で、学級で活力ある姿を示します。この活動に子どもと共に取り組み汗を流す中で、授業以外での教師の役割を体感できます。



最後に、教師に求められている資質能力として、豊かな人間性や社会性、対人関係能力、コミュニケーション能力などの「総合的な人間力」もあげられています。教職を目指す本学学生の皆さんには、教師としての力量をつける努力に加えて、サークル活動やボランティア活動をはじめ種々の体験も積み重ねてほしいと思います。

附属久留米中学校 副校長 永溝 弘幸



「教育週間2014」を開催しました

福岡教育大学では、本学開校記念日(6月1日)からの1週間を、教育の活性化を図る「教育週間」としています。

6月4日「優秀教育実習生トーク&トーク」及び「教育講演会」を開催

まず、6月4日(水)には「優秀教育実習生トーク&トーク」及び「教育講演会」を開催しました。

「優秀教育実習生トーク&トーク」は、甲斐附属学校部長によるコーディネートのもと、平成25年度福岡教育大学優秀教育実習生賞を受賞した学生8名による報告、その後は各附属小中学校・園に分かれて学生同士による意見交換及び発表が行われました。これから教育実習を控える学生達にとって、「わからないことや不安なことなど、色々な話ができてとても良かった」「実習に対しての意識改善につながった」「『実習生はすべてが実習』という言葉が印象的だった」などの声が寄せられました。

「教育講演会」は、本学卒業生で、中学校校長、福岡県教育庁筑豊教育事務所長、山田市市長を歴任された前・嘉麻市長の松岡賛氏を講師にお招きし、「教員採用試験にあたっての心構え」と題して講演会を実施しました。

自身の体験を通して「教育とは、如何に望ましく生きるかを学ばせること」「教員に求められているのは、何よりも意欲と情熱である。志のないものは無志(虫)である」「経験は人を変える」など、福教大生への熱いメッセージを発信する松岡講師に、参加した学生・教職員からは「教育者としてだけでなく、人としてとても参考になる話だった」などと好評でした。



「優秀教育実習生トーク&トーク」の様子



「教育講演会」の様子



講演する松岡氏



6月5日 全学一斉の地震総合訓練を実施

6月5日(木)には、全学一斉の地震総合訓練を実施しました。

「自分たちの命を守るだけでなく将来の教え子の安全を守ること」を念頭に、学生への安否確認及び迅速な避難報告を重点目標にかかげ、震度6強の地震が発生したことを想定して、授業中の学生も参加し最終避難場所まで避難誘導を行う避難訓練、電子メールを使った安否確認発信訓練及び初期消火訓練を行いました。

このような地震総合訓練は、今年で4回目を迎え、昨年以上に的確な情報伝達、迅速な避難訓練を行うことができました。

訓練終了にあたって宗像消防署長より、「大規模地震が起こる可能性があるということは、いつか起こることです。地域での訓練にも積極的にご参加いただき、防災に関する意識を高めてほしい。」との講評をいただき、最後に寺尾学長より「今回の訓練では最終避難場所までの避難計画を立てておりましたが、皆さんの速やかな行動により、想定した時間内に避難することができました。このような訓練に参加することは、災害に直面した際の、素早い判断や行動の手掛かりを身に付けるために重要であります。」との総括がありました。



消火器を使用した消火訓練



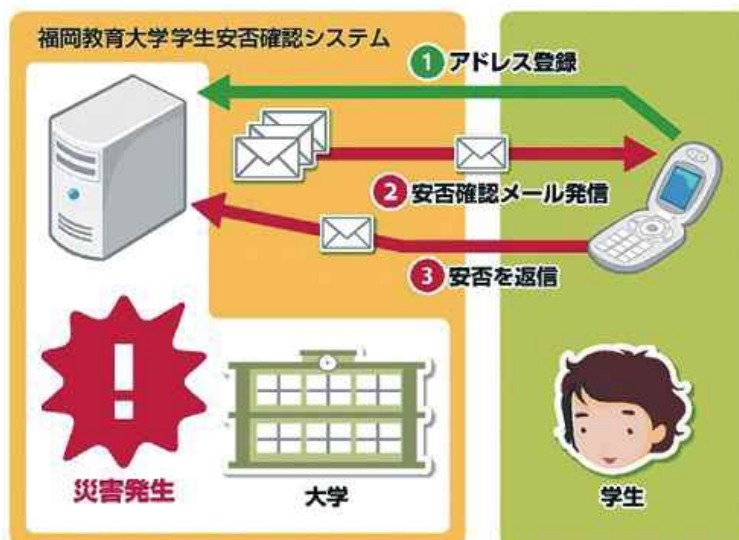
宗像消防署長による講評

学生安否確認発信訓練を実施

本学では、災害発生時等における学生の安否確認を行う手段の一つとして、事前に学生が大学に登録したメールアドレスに安否確認のメールを配信する「学生安否確認システム」を整備しました。

今年度は、5月15日(木)と6月5日(木)の2回に渡り、図の要領にて大学から「安否確認メール」を学生の皆さんが登録したメールアドレスに配信し、「学生安否確認発信訓練」を実施しました。

福岡教育大学「学生安否確認システム」の概要



① アドレス登録	安否確認システムにメールアドレスを登録することで、大学からの安否確認メールを携帯電話やPCで受信することができます。
②～③ 安否確認	大規模災害発生時に、大学から安否確認メールを送信しますので、安否状況を回答してください。

「教育週間2014」関連事業 「若手教員による研究成果発表会」を開催しました

6月12日(木)と19日(木)の2日間に分けて、「福岡教育大学 教育週間2014」の関連事業として「若手教員による研究成果発表会」を開催しました。本発表会は、平成25年度大学教員活動評価で高い評価を受け、学長裁量経費から研究費の支援を受けた優秀な若手教員8名がその研究成果を発表するという趣旨で企画されたものです。

1回目となった6月12日は、本学アカデミックホールにおいて家政教育講座の貴志倫子准教授と特別支援教育講座の一木薫准教授が発表を行い、音楽教棟においては音楽教育講座の武内俊之准教授がピアノの実演を通じた発表を行いました。

また、2回目となった6月19日は、アカデミックホールにおいて国語教育講座の勝又隆准教授、技術教育講座の梅野貴俊准教授、理科教育講座の甲斐初美准教授、学校教育講座の河内祥子准教授の4名が発表を行い、美術教棟においては美術教育講座の加藤隆之准教授が油彩画の展示と解説による発表を行いました。

発表会には学生、教職員が2日間で延べ148名参加し、普段あまり聴く機会のない教員による研究発表に耳を傾け、発表会終了後には参加者から好評を得ました。

今年度も、優秀な若手教員に対して研究支援を行い、来年度、その研究成果発表会を行うこととしています。



教員養成の質向上に関する諮問会議を開催しました

平成26年6月20日(金)、平成26年度第1回教員養成の質向上に関する諮問会議を開催しました。

本会議は、教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長等を構成員とし、教員養成に関する様々な社会の要請を踏まえたカリキュラムの検証、養成する人材像、現職教員の再教育の在り方などについて答申し、本学のミッションに資するため、本年度新たに設置したものです。

従前の教職大学院運営協議会や本学が独自に設置した外部評価委員会に代わるものとしての役割が期待されます。

会議の開催に当たり、学長から議長へ、「本学の教員養成の質向上に向けた方策について」と題した諮問文が手渡され、担当理事から諮問内容の説明後、現場が望む教員像、実践力を高める方策等について活発な意見交換が行われました。

今後は、「本学が養成すべき人材の在り方」については7月中に中間報告を取りまとめ、「入試制度の在り方」、「カリキュラムの在り方」等については平成26年12月末を目途に、可能なものから順次中間報告を取りまとめることとしています。

これらの諮問会議からの報告を踏まえ、実践型教員養成機能への質的転換等、教員養成に対する社会の要請を受けとめた改革を加速することとしています。



諮問文を渡す寺尾学長(右)



挨拶をする寺尾学長

本学学生3名が「宗像国際環境100人会議」に参加しました

地球環境保全と次世代の人材育成を目的に、古来から国際交流の拠点として栄えた宗像市において、自然科学者、社会科学者、人文科学者、国際機関関係者、企業家、金融機関関係者、国や自治体関係者、市民活動家、文化人など、国内外から地球環境保全の為に活躍するリーダーが集まり、地球の未来について協議する「宗像国際環境100人会議」が平成26年より毎年開催されることになりました。

開催記念シンポジウム(本年3月24日本学にて実施)を経て、「第1回宗像国際環境100人会議」が平成26年5月30日から6月2日の日程で開催され、本学から3名の学生が参加しました。

「海の道は未来へのみち」をメインテーマに、海を中心とした自然環境の再生のためにはどうすれば良いかなどを日本・世界のトップクラスの研究者や企業人と議論を交わし、具体的な対策を検討し発表を行うなど、充実した4日間となりました。



テーブルディスカッションの様子(左:筒井さん)



参加学生集合写真

参加学生から

私はこの会議で幅広い視野を養いたいと思い参加しました。会議で私が得たものは、広いものの見方や考え方、環境問題に関する知識、そして積極性です。会議では、専門が異なる人々が一緒に同じ課題について協議することで多くの視点から考えていくことができ、たくさんの気づきがありました。例えば、環境におけるグローバル化の負の側面、科学的視点をもつことなど、一面的な見方ではいけないということなどです。また、会議の中で一番心に残った言葉を紹介します。「地球に住む生き物は意味・役割を持っている。」という言葉です。私は生物を専攻しているため、その意味・役割について考える機会が人より多くあると思います。私はこれから、この会議での経験を生かして、基礎的・基本的な知識を学ぶことに加え、今まで明らかとなっていない生き物について、その意味・役割について研究し、多くの人と共有していきたいと思っています。そして、将来社会人になったときにこれらの学んだことを生かしていきたいと思っています。

環境教育課程環境教育コース 筒井 美樹江さん



授業紹介

栽培実習A

技術教育講座 教授 平尾 健二



教員プロフィール
平尾 健二
(ひらお けんじ)

九州大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程修了(博士(農学))
専門は作物栽培学。2002年4月本学赴任。イネ栽培を中心に幼稚園、小中学校から一般社会人までを対象に幅広く食農教育活動を行っている。



「栽培」は技術科の必修です!

1年生前期の実習科目ということもあり、毎年、中等技術専攻、初等技術ものづくり選修の全員が受講しています。実は、ほとんど知られていませんが、中学校「技術」の免許を取得するために栽培に関する本実習は必修です。一年生にとって、大学で作業服を着て畑を耕すなんてことは、想像もしなかったことでしょう。この授業は意外性ととも、技術教育の幅広さを知る第一歩となっています。



農場で土にまみれ、汗をかきながら育まれるもの

「自分は、なんで技術科なのに、農業しているのだろう?」と最初は戸惑いながらの毎日かもしれません。春先のさわやかな空気のもとでの実習は気持ちのよいものですが、梅雨の時期や暑い夏の日差しの下など、決して快適な環境ばかりの実習ではありません。しかし、学生たちは次第に土に触って作物を育てる心地よさやおもしろさに気づいてくれるようになります。それは、自分たちの前で元気に大きく育っていく野菜たちの姿に感動し、収穫の喜びを感じるからだと思います。仲間と協働して育てた野菜であれば、なおのことでしょう。

自分で育てて食べてこそ分かる食育の大切さ

この授業を通して、自分たちで育てた野菜を食べることにより、食べ物について学び、伝える食育の大切さを理解することができるようになります。収穫したものを農場で調理して食べるほ

か、自宅に持ち帰って自炊に使うように勤めています。「自炊力」は大学生にとって重要なキーワード。「食の自立」は、教育大での4年間の学生生活を支えるベースになると考えています。また、この授業で植え付けた作物の一部(イネ、サツマイモ等)は、後期「栽培実習B」で収穫することになっています。ちなみに、後期の栽培実習Bは、家庭科の「実践食生活(秋永優子教員)」とのコラボ授業にもなっていて、食の生産から調理・消費を、自分の日々の生活と重ね合わせて、一つの流れの中で考えることを提案しています。



理論に学び、実践を志向する

学校教育講座 教育方法学(樋口裕介)研究室

本研究室には、3年生5名、4年生2名、大学院1年生1名、外国人留学生(学部研究生)1名が所属しています。所属学生の研究テーマは、ICTを活用した反転授業、楽しい授業、いじめ、学校教育の意義と役割、学力、特別な教育的ニーズのある子どもたちとの学級づくりや授業づくり、そうした子どもを含めた多様なニーズのある子どもたちにふさわしい学習評価、様々な意味での貧困問題に対する反貧困の教育、子どものアイデンティティとサブカルチャー、素質教育の観点から見たカリキュラムの年中比較、といったように昨今の学校教育実践が直面している多様な課題に呼応するかのように多岐にわたっています。教員は、ドイツ教授学に学びながら、子どもにとって意味のある

カリキュラム・授業について研究しています。

ゼミでは、文献講読によって理論に学びつつ、「では、具体的にどうしたらいいのか」と実践を志向して、教員と学生とで議論を重ねています。個人研究以外にも、共通テーマを設定しての読書会や、授業研究にも取り組んでいます。

歴史や理論に学ぶことと、授業研究などで実践に学ぶことを通して、単なる思いつきではなくて、自分なりの根拠や意志をもって「よい教育」のあり方を模索・実践できる教育の専門家になることを願っています。



学校教育講座

学校教育講座では、今日の学校教育が抱える諸問題を教育的アプローチから解決するために、その基礎となる理論研究をはじめ、教育方法の改善に関する研究や教師の実践を分析する研究、教員養成や現職教育に関する研究などを行っています。これらの多様な研究の成果を生かしながら、初等教育教員養成課程 学校臨床教育学選修においては、「教育現実に出会い、体験と理論を往還する授業」と「教育学の専門的な知識や理論を学ぶ授業」を充実させたカリキュラムを編成しました。ほとんどの学生が教育支援ボランティア活動に参加して大学での学びを確かなものとするとともに実践力を高め、学内トップレベルの教員就職率を誇っています。

教育・心理教棟の改修を機に、学級づくりや授業構成を学ぶための「クラスマネジメントラボ」や、学生たちの自主的な学習を促す「教職資料室」を新たに整備しました。これからも主体的かつ積極的に学び続ける教員の養成に取り組んでいきます。



ラグビー部

Rugby Club

私たちラグビー部は、現在、部員20名、マネージャー8名の計28名で活動しています。基本的には、月・水・木・日の週4日、福岡教育大学の多目的グラウンドで練習をしています。

福教大ラグビー部は、一昨年、九州3部リーグで優勝を果たし、九州2部リーグに昇格し、昨年は九州2部リーグにて4位という成績を残しています。今年は、チーム一丸となり、九州1部リーグ昇格へ向けて日々練習に励んでいます。

“ラグビー”というと、どうしても中学・高校から始めるスポーツというイメージを持っている人が多いと思いますが、過去の先輩方も含め、現在の部員の中にも大学からラグビーを始め、活躍している人がたくさんいます。ラグビー部は、初心者・経験者関係なく、とにかくラグビーが大好きで熱い人たちの集まりです。

年間の行事としては、初詣・ボーリング大会・BBQ・そうめん流しなど、みんなで楽しむ行事が盛りだくさんで、楽しむ時は精一杯楽しみ、ラグビーをする時は本気でラグビーと向き合うような部活です。

リーグは9月から始まります。福岡で開催される試合も多いので、もし少しでもお時間のある方は、グラウンドまで足を運んでいただき、私たち福教大ラグビー部の応援をよろしくお願いします。



中等教育教員養成課程技術専攻 4年 新村 賢太郎

華道部

Kadoy Club

私たち華道部は、「お花を生ける。私を磨く。」をキャッチフレーズに、みんなで楽しく活動しています。

今年度再結成した、できたてほやほやのサークルであるため、これから、先輩・後輩関係なく、みんなで活動日や活動内容を考えて、華道部をつかっていきたいと考えています。現在、4年生3名、3年生1名、1年生2名の計6名と部員は少ないのですが、みんな仲良く、和気あいあいとした雰囲気です。

活動は、月に1～2回程度、季節の花々を使って行います。そして、生けたお花は、学内食堂のフィオーレに飾らせてもらうようにしています。みなさんも、フィオーレを利用するときには、私たちの作品をぜひ見てみてくださいね!

また、半期に1度は、華道の先生をお招きして、本格的なご指導を受けることも考えています。

きれいなお花に触れたり、生け花をしたりすることは、人を清らかな気分にしてくれるものだと思います。あなたも、私たちといっしょに、日本の伝統文化を通して、自分磨きを試みませんか。



初等教育教員養成課程生活・総合選修 4年 矢野 汐理

学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載第8回

福岡県小竹町立 小竹中学校との 連携活動

理科教育講座：
宇藤 茂憲、小杉 健太郎、唐澤 重考、山田 伸之



はじめに

理科教育の研究室では、これまでに科学的な題材を中心に様々な学校と連携し、多様な教育実践活動や研究を行っています。ここでは、一連の連携活動のうち、表に示す継続的に実施してきた中学校と大学の連携(中・大連携)活動の例を紹介します。

この活動は、中学生・中学校教師・教師を目指す大学生・大学教員の4者がそれぞれ教育研究効果を相乗的に高めあうことができるよう、事前の計画・講座実践・実態調査・事後の振り返りといった年間を通じた中学校と大学の綿密な連携のもとで進められています。その中では、参加学年のすべての生徒たちが、理科を学ぶ具体的なイメージを抱き、学習に積極的に取り組めるよう講座内容等に工夫を凝らしています。例えば、内容の事前レクチャーを通じて、生徒たちが自ら受講内容を選択するという形式を取っています。講座は、日常の中学校を離れ、福岡教育大学で行い、大学の雰囲気を楽しむという中学生にとって初めての経験の連続ともなっています。

まだまだ試行錯誤の繰り返しですが、生徒たちの講座での実験・観察や理解を深める議論などの科学的経験を通じて、中学生なりに独り歩きできる探求活動へと繋がることを期待しています。

物理(エネルギー)領域講座の例:「磁石とエネルギー変換」

連携活動での講座の例

宇藤 茂憲 教授

講座のポイント:

日常生活でのエネルギー源は様々ですが、手軽に利用できるのは家庭にあるコンセントからの電気です。電力会社から供給される電気は水力・火力・風力・地熱発電、或いは原子力発電によって生産されますが、これらの発電の基本原理は中学校理科で学ぶ「電磁誘導」です。本講座では、直流から交流の概念へと展開させながら、永久磁石・コイル・パソコンオシロスコープを用いて現象を実験室で再現して検証します。生徒がデータを表やグラフに整理しながら議論して、理解を深められるように講座を構成しました。



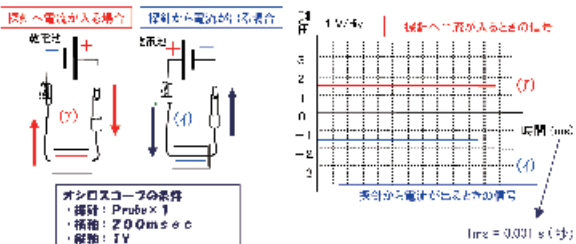
講座での説明図

3. オシロスコープの使い方

◇ 生徒実験2 ◇

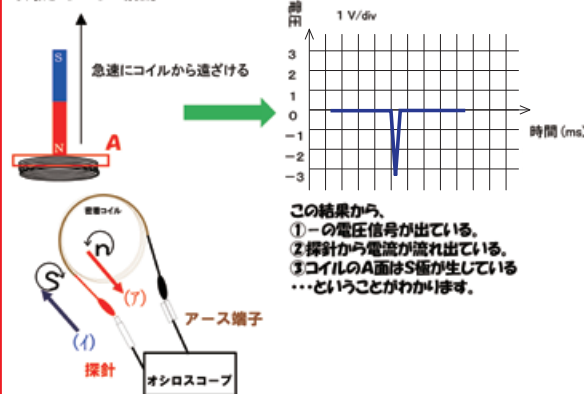
実験2: オシロスコープで直流電圧を測定しよう!

- 赤の例: 探針を単1電池の+側、アースクリップを単1電池の-側で測定
- 青の例: 探針を単1電池の-側、アースクリップを単1電池の+側で測定



※これらの実験結果が「考える基礎」になります

実験3での1の解説



化学(粒子)領域講座の例:「物質の変化と熱」

連携活動での講座の例

小杉 健太郎 准教授

講座のポイント:

中学校の理科の授業でも取り上げられるような溶解に伴う熱の出入りを題材としながらも、大学における学習ならではの測定とデータ解析を含む内容で講座を行いました。中学生が難しく感じないように実験の構成を工夫するとともに、データ解析のやり方についても図を多用したテキストを作成しました。また、温度測定機器からのデータ集録や解析に一般的な表計算ソフトを使用することで、中学生に測定実験を身近に感じてもらえるように配慮しました。

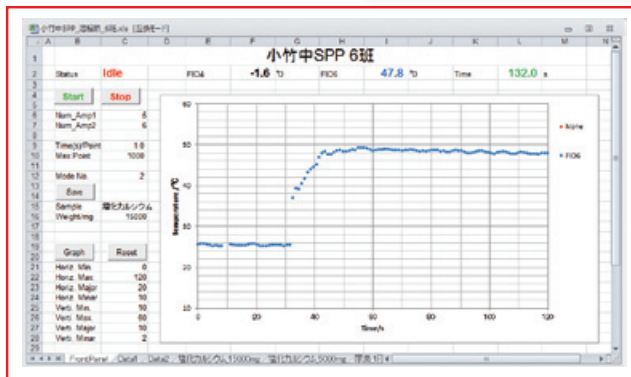


〈講座での説明図〉

物質の溶解について

中学1年生の理科の授業で水溶液について学習

- 水溶液：水に物質が溶けた液体
- 溶質：水溶液に溶けている物質
- 溶媒：溶質を溶かしている液体。水溶液の場合は水。
- 溶解：溶質が溶媒に溶ける現象。溶質の粒子がバラバラになって溶媒の粒子の間に入り込み、目では見えなくなる。



生物(生命)領域講座の例:「遺伝子の観察と役割」

連携活動での講座の例

唐澤 重考 准教授

講座のポイント:

私たちヒトも含め生物は、たった1つの細胞に含まれているDNAを基にして、その複雑な形や現象を生じさせます。なぜ、この極小の化学物質であるDNAに、こんなにも大きな役割を担う事ができるのか!これは生物学の大きなテーマの一つと言えます。そこで、本講座では、中学生が体験・仮説実験を通して、DNAの科学的性質を理解することを目標とし、DNAの抽出と観察、その化学的性質を利用した電気泳動法による分類、そして、タンパク質の役割解明のための検証実験などを行いました。



〈講座での説明図〉

生き物を対象とした学門

1年生: **植物**の生活と種類
→ 光合成、呼吸

2年生: **動物**の生活と生物進化
→ 細胞、生命維持

3年生: 生命の連続性、**自然界**のつり合い
→ 遺伝、食う— 食われる

DNAの性質

- DNAは電気が流れると、**一極から+極**に流れる
- 流れる速度は、**小さなDNAほど速い**

小竹中学校との中・大連携事業 (H21年からH26年の6年間の実施内容)

項目	年	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
連携事業名		(JST教員研修) 生徒と学ぶ教員研修	科学実験 大学講座	科学実験トレーニング講座 —実験器具の製作と定量的なデータ解析で学ぶ身の周りの自然現象—	科学実験 大学講座	生徒の科学的思考を育む言語活動を重視した科学実験講座その2	実験で体感する身の周りの科学技術と現象—エネルギーと物質—
物理課題		仕事の概念とエネルギー変換について(以降、宇藤)	パソコンを活用した「音」の実験	(SPP) 「音の速度」を正確に測ってみよう	「音」を聞いて、見て、触って科学する	科学実験大学講座(含、iPad調査・分析活動) 「大気圧実験」と「電気エネルギー生産」	(SPP) 「磁石とエネルギー変換」
化学課題		新たな教材として種々の金属化合物を用いる発展的授業の一案(長澤)	物質の溶解・析出と熱の発生・吸収に関する実験(以降、小杉)	(SPP) 物質の変化と熱	物質の溶液について立てた仮説を測定実験で確かめよう		(SPP) 「分光」と「結晶生成と熱」
生物課題		遺伝の規則性と遺伝子について(西野)	ダンゴムシを使った行動実験—科学的研究方法の修得を目指して—(以降、唐澤)		ダンゴムシが迷路を脱出できる理由	(SPP) 「遺伝子」	科学実験大学講座「動物の行動にみられる規則性」
地学課題		地震の内容における各種実験を含めた実験のための実験(以降、山田)	地震・火山活動の現象理解と防災への橋渡し		身近な大気温度環境を計る調べる実感する	(SPP) 「地震と防災」	科学実験大学講座「身の周りの空気環境」

※ SPP: サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

※ JST: (独) 科学技術振興機構

地学(地球)領域講座の例:「地震・防災」

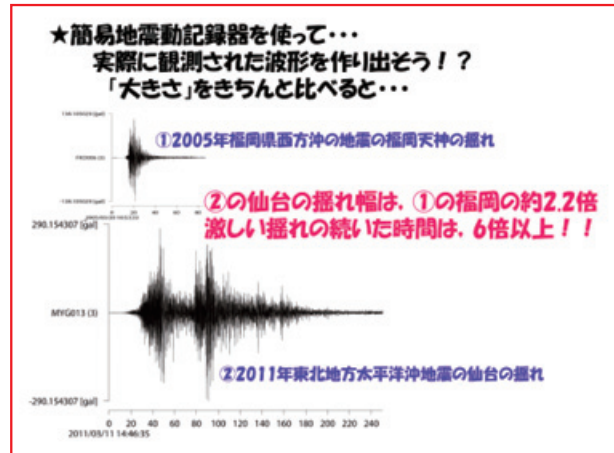
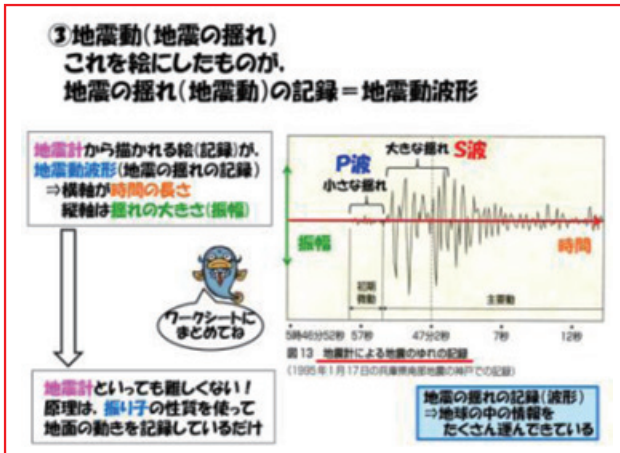
山田 伸之 准教授

講座のポイント:

「地震」現象やそれによる「災害と安全」などについての入門的学習から始め、生徒たちの手で揺れを作り、大地震の地震動記録の波形を簡易機械式・デジタル地震計を用いて再現させ、地震動の継続時間の長さや振幅の変化について体感的に知ってもらうことを試みました。さらに、「地震」現象がなくとも、大地は微かに揺れていることを確認してもらいました。こうした一連の活動を通じて、福岡では経験が少ない事象であり、教科書の内容だけではなかなか理解しにくい地震と地震動の繋がりが地震動記録がどんなものなのかを実感を伴って知ってもらえるよう心掛けました。また、東北での大震災の被害実態を生徒たち自身で調べることを行う機会も設け、防災への興味や関心を高められるよう盛り込みました。



講座での説明図



生徒へのアンケート結果と学力(理科)への効果等

小竹町立小竹中学校主幹教諭 山崎 昭久

理科好きの生徒は活動後に更に理科への関心が高まったと回答し、あまり関心が高くない生徒も関心が高まったと回答しています。「大学の研究室で今までと違った環境で学習できて興奮した」「初めて使う器具や薬品があり、関心が高まった」などの感想から、非日常的な大学での活動経験は理科の関心を高めるには有効であると判断できます。「少し難しい内容で、考えるのが楽しかった」「内容が少し難しかったので、いつもより深く考えることができた」といった記述から、より高度な内容が生徒の知的な好奇心を高めるのに有効に作用し、大半の生徒が事象を探究的に捉えて自分なりに深く考えることができた」と回答しています。より複雑な内容を自分自身で作業し確認しながら学習を進めることで、事象を探究的に捉えることの面白さを実感したようです。

このような中・大連携活動が、生徒の理科への関心を大いに高めることを、例えば、昨年の1年生対象の「学力分析テスト:理科」の得点(9月と11月実施の比較)が平均得点率(%)で20ポイント以上伸びたことから確認できました。また、理数科への高校進学に関しても、中・大連携活動をはじめて以降、顕著な上向き傾向が現れています。

<生徒の探究活動の実績>

- 平成21年度: 日本学生科学賞福岡県最優秀賞(全国大会出場) 「緑のカーテンの効率的な使用方法の研究」
- 平成22年度: 全国統計グラフコンクール 福岡県特選受賞 「省エネカレーの作り方」
- 平成24年度: 日本土壤動物学会発表 「ダンゴムシの登板行動に関する研究」(毎日新聞掲載)
- 平成24年度: 福岡県科学作品展 「ダンゴムシの登板行動に関する研究」 ポスターで福岡県優良賞受賞

まとめ

本中・大連携活動によって、中学生の理科・科学に対する関心を高められただけでなく、科学的思考力も育めたと評価しています。また、教える側として関わった教育大生(ティーチングアシスタント)と大学教員も、中学生の学習の様子から様々なものを吸収して、その後の教育活動の糧にしています。

本活動の成果や経験は、授業改善によって本学の学生に還元されるのみならず、教員研修や公開講座等を通じて広く教育現場に波及するものです。講座内容や実験器具等の準備に時間・労力・経費を要しますが、今後も「質の高い理科教育の実践」に向けて貢献できる活動を継続していきたいと考えています。



直方市立直方北小学校
やまの なおき
主幹教諭 山野 直樹さん
平成元年3月
小学校教員養成課程社会科卒業



一人一人の子どもたちの成長を願って

主幹教諭として、教育計画の立案や教育課程の編成及び実施管理や学習指導・生徒指導に関する連絡調整等の仕事を行っています。担任ではありませんが、授業や様々な行事で子どもたちと関わっています。授業を通して、子どもたちから「わかった」「できるようになったよ」等の言葉を聞くとうれしくなります。また、行事の中で、子どもたちが、意欲的に取り組んだり、達成感を味わったりする姿を見ると、これからも一人でも多く子どもたちが活動を通して成長できるように自分の役割を果たしていかなければという思いになります。

教師として高め合うことの大切さ

勤務校や他の学校の若い先生方と一緒に研修を通して授業づくりをする機会があります。どの先生方も、「子どもたちに理解させたい。」「一人一人の力を少しでも伸ばしたい。」という願いをもって試行錯誤しながら、一生懸命取り組まれています。時には、うまくいかないこともあります。本当に熱心に取り組む先生方の姿を見て、私自身も負けていけないと思うことがよくあります。このような研修を通して、お互いに高め合っていくことの大切さを感じています。



福教大生のみなさんへ

福教大生のみなさんも教職に就かれることに希望や夢を持たれていると思いますが、その反面不安も持たれているのではないかと思います。確かに教師には、厳しい面もたくさんありますが、それ以上の喜びや成就感を味わうことができます。私自身、失敗したことも数多くありますが、その経験をバネにして次への活力にすることが大切だと思っています。失敗を恐れずに前向きに取り組むことは、教師だけでなく子どもたちの成長にもつながります。子どもたちと共に成長していけるような教師を目指してがんばって下さい。





福岡県警
はなだ きょうこ
福岡県警察事務 花田 響子さん
平成24年3月
共生社会教育課程 福祉社会教育コース卒業



警察事務という仕事

私がこの仕事に就いて今年で3年目になりました。始めは何一つ満足にできなかった仕事も上司に助けてもらいながら、少しずつ自分の判断で行えるようになってきたところです。私の担当する仕事は、職員の給与に関する事務や落とし物の窓口などです。基本的には、他の行政機関の職員と変わらないのですが、警察官と同じ空間で仕事をするため、特殊な業務に従事することもあります。

私は学生の頃、社会人になれば勉強することもほとんどなくなるとばかり思っていたのですが、とんでもない! 県民の税金を扱うわけですから、適正に手続きをするために、日々、法令集や通達文書とにらめっこしています。手続きの「完了」ボタンを押すときは、未だに緊張します。難しい仕事のように思うかもしれませんが、やりがいもたくさんあります。

「外」で働く警察官を事務職員が「内」から支えることで「警察」という組織は動いています。表舞台に立つことはほとんどありませんが、めぐりめぐって県民の方々へ貢献できる仕事であると思っています。興味がある方は、ぜひご連絡ください!

自分で選んだことは絶対に後悔しない!

私が大学4年生の頃、使っていた手帳に書いた言葉です。大学生活というのは、自由な時間が多く、誘惑がいっぱいです。私が大学生活で最も力を入れていたのはサークル活動でした。何をやるわけでもなく、仲間と一緒にいるだけで楽しかったのを覚えています。だからこそ、つい勉強からの逃げ場所になってしまうこともしばしばありました。しかし、公務員試験を目前に、「『サークルに入らなければよかった』という後悔だけはしたくない」「『サークルも勉強も頑張っ、充実した学生生活だった』と胸を張って卒業したい」と決意し、一心に勉強しました。その甲斐あって、公務員試験を突破し、残りの学生生活をめいっぱいサークル活動に費やすことができました。

もちろん、息抜きだって大切です。趣味と勉強とを上手にコントロールして、後悔しない学生生活を送ってくださいね。



憩いの場が拡大しました!

赤間キャンパス内の学生センターと教育・心理教棟の間のスペースが整備され、中庭へとつづく広々とした空間ができあがりました。ベンチも設置されていてゆっくりとくつろぐこともできます。

皆さまもご来学の際、歩き疲れたときなどには、中庭やこちらの広場でくつろぎください。

なお、平成26年10月1日には学術情報センター図書館がリニューアルオープンいたします。図書館入口はこの広場に面した場所にあります。併せてご利用ください。

みなさまのお越しをお待ちしております。



表紙モデルの福教大生☆



さかもと

坂本

みゆう

美優さん(写真左)

中等教育教員養成課程
音楽専攻2年

ふじもと

藤本

はるき

春樹さん(写真中央)

初等教育教員養成課程
生活・総合選修2年

にしもと

西本 きよらさん(写真右)

初等教育教員養成課程
美術選修2年

今号では、今年4月に結成されたサークル「ピア」の3名に登場していただきました。「ピア」は、平成25年度の文部科学省特別経費事業の一環として実施した「福教大ブランド<一年生塾>」に参加した学生たちが、「もっと福教大をよくしたい!」という強い想いをもとに結成したサークルです。

教職を志す仲間とともに、福教大生の大学での学びをよりよいものにしたいという高い志を持って日々奮闘しています。

藤本 春樹さん

メンバーそれぞれが高い意識と自分の考えをしっかり持っているので、様々なテーマでより深い議論ができます。今後もお互いに刺激を与え合いながらいいサークルにしていきたいです。

坂本 美優さん

<一年生塾>に参加したことで、授業では会うことのない、違う分野を専攻する仲間ができ、自分とは異なる視点から意見をもらえるので、とてもいい刺激を受けます。

西本 きよらさん

学校とはどうあるべきか、教育に求められるものとは何なのかなど、根源的で意義深い議論を交わすことができるので、今後も互いの意見を理解しながら、自分の視野を広げていきたいです。

「福教大ブランド<一年生塾>とは、学校教員を目指して本学に入学した一年生が、様々な形で学校教員という仕事にふれ、未来を築く意欲をもって4年間の大学生活を送ることを目的とするプログラムです。

本学は今後も、教師を目指す学生のみなさんを全力で応援いたします!

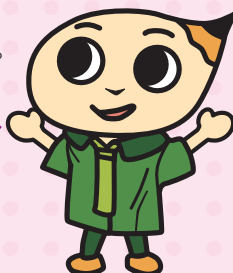


学生広報スタッフ大募集

大学や学生情報のアイデア提供、広報誌の取材・写真撮影、ポスター・ホームページのモデル、大学ホームページのモニター、制作への参加、その他大学の広報活動全般に関わってみませんか?

詳細は担当者までお気軽にお問い合わせください。

福岡教育大学の魅力を高校生・受験生をはじめ、地域の皆さまに知ってもらうために、広報・広告活動にボランティアとして参加・協力してくれる福教大生を大募集!
みなさんの応募をお待ちしています!



●応募方法等

メールで、本文に以下の3項目を記載の上、応募してください。

1.所属・学年 2.氏名(ふりがな) 3.連絡先(電話番号・e-mail)

受付後、こちらから連絡します。

なお、応募者多数の場合は、選考の上、結果を連絡します。



●応募先・問い合わせ先

経営政策課 梅田

TEL. 0940-35-1205

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

キャンパスからの便り

Campus letter

学術情報センター

図書館のリニューアルオープンについて

平成26年10月1日(水)

学術情報センター図書館がリニューアルオープンいたします。

リニューアルオープンの準備のため、夏季休業中は全面閉館いたします。利用者の皆さまにはご不便をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。



【リニューアルオープンまでのスケジュール】

平成26年8月7日まで(前期試験終了まで) …… 仮設図書館開館

8月8日～ 9月30日(夏季休業中) …… 全面閉館

10月1日から …… リニューアルオープン

※詳細は、図書館ホームページに随時掲載します。

学術情報センター 図書館HP

<http://ufinity01.jp.fujitsu.com/fukuokaedu/>



健康科学センター

MESSAGE No.107 2014春号

今回の内容は、「スケジュール管理と手帳」、「デジタルとアナログ2」、「友達づくりのヒント」、「心地よいおしゃべりのために～『相槌』～」、「癒しの空間へようこそ」、「はな!?」、「イッキ飲み禁止」、「花を育てる会&ホームページできました!」など盛りだくさんです。

また、表紙は中等美術専攻の中原久美子さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



健康科学センターHP

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

同窓会 城山会

じょうやま

平成26年度 第39回定期総会報告

4月29日(火)に第39回定期総会を八仙閣本店で開催いたしました。総会は福岡県28支会、長崎、佐賀、宮崎、山口県支部の代表者約140名、懇親会は、大学学長をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り約130名が集いました。11年の長きに渡り務めてこられた毛利公亮会長がご勇退され、新会長として太田勝視先生が就任されました。

(写真右:毛利前会長/中央:元嘉麻市長松岡賛先生/左:太田勝視会長)

先輩同窓会や大学役員の先生方との懇談で交流を深め、支部会づくりの糧となるひとときでした。

【今後の事業予定】

城山会研修会	新卒会員情報交換会(大学共催)
8月3日(日)	10月11日(土)
福岡リーセントホテル	学内アカデミックホール

後援会

平成26年度保護者説明会について

平成26年度保護者説明会の日程は以下のとおりです。

6月14日(土)	長崎
6月21日(土)	熊本
6月28日(土)	大分
7月 5日(土)	広島
11月23日(日)	大学

詳細は下記事務局までお気軽にお問い合わせください。



後援会事務局

TEL・FAX: 0940-33-8070

e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp



同窓会城山会事務局

TEL・FAX: 0940-33-2211

e-mail: jouyamakai@able.ocn.ne.jp

Joyama 通信 vol. 30



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第30号

2014年7月25日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

表紙撮影: 堤 繁彦

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■本号の特集1では、寺尾学長のもと全学をあげて取り組んでいる大学改革について紹介しました。九州の教員養成を担う広域拠点大学として、その責務を果たすべく全力で突き進みます!特集2として、本学の附属学校・園の紹介をしました。教員を目指す学生のみなさんにとって、附属学校・園での教育実習は、将来の貴重な財産となるに違いありません。学生のみなさんの“夢”の実現のために、教職員一丸となって支援いたします。

(広報編集部)

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。